

いまもあしたも誇れる座間であるために...

発行者：おぎはら健司
発行元：座間市相模が丘3-24-2-203
連絡先：046-204-5911 (ファックスも同じ)

おぎはら健司の市政レポート

平成25年度施策別の分析その2

前号では、健康部が所管する【政策1：笑顔あふれる健やかなまち】について詳細を分析しましたが、今号では【政策2：支え合い思いやりに満ちたやすらぎのまち】についてお伝えしたいと思います。

こちらは福祉部が所管する施策、地域・高齢者福祉(3億2,192万円余)、障害者福祉(19億7,289万円余)、保育対策(15億2,530万円余)、子育て支援(27億9,219万円余)、生活困窮対策(40億2,679万円余)の5つの施策から構成されており、執行額は約106億3,900万円余となっており、平成25年度歳出総額に占める割合は29.6%を超えています。

高齢者福祉に関する支出は想像以上に少なく感じるものですが、事業の性質ごとに分析をすると、自立支援や生きがいサポートといった性質の予算が多いのが特徴となっています。

つまり、高齢者が参画しやすい地域活動の事業の充実や老人クラブ活動をサポートする予算を少額で編成し、元気な高齢者を育成し、結果として歳出抑制を図るといった狙いがあります。

次に障がい者福祉を分析すると、知的障害・身体障害・精神障害など、障がいの区別により予算措置されていますが、障がいを持った市民の皆さんが『自立』した生活を送れるような施策の充実が必要と考えます。

障がい者支援と聞くと思い出すが、甘利大臣が行革担当大臣を務めていた頃に秘書として仕えていた際、様々な障がい者団体の代表者の方々と懇談を持たせて頂く事がありましたが、知的障がい者の父母の会の代表者の方が「私たち障がい者が自立する事で社会を牽引していきますから、何でも手を差し延べるのではなく、自立をする機会を用意してください。」とお話をされた事が今でも忘れられません。これからも、自立を推進する施策の充実を提案してまいります。

次に保育対策についてですが、最も大きな予算が措置されているのが、私立保育園との連携、とりわけ私立保育園における保育の質と量を向上させるための予算です。

こちら甘利大臣の秘書時代から取り組んできたテーマですが、待機児童解消のために必要な事は、保育所で受け入れられる児童数の拡大と保育所における保育の質の向上です。

現場の声に耳を傾けると、あらゆる職業の中で、賃金水準が最も低い保育士の職ばなれが明らかになります。せっかく保育士の資格をとっても理想だけでは長続きしないという声を現役保育士さんから伺います。

それらを解消するために、国が新たに用意した保育士の処遇改善のための予算を最大限に活用し、座間市内の民間保育園で働く保育士さんが仕事をしやすいような施策、具体的には賃金やボーナス等へ波及するような取組みを図る保育所へ手厚く補助をする予算が措置をされています。

子育て支援では、児童手当支給事業費が21億円強とその予算の大部分を占めています。

また、生活困窮対策は、生活保護費となりますが、過去のリポートでもお伝えしている通り、近隣他市に先んじて、座間市では就労支援を徹底する事により前年度に比較して若干ではありますが歳出抑制が図られました。

次号では、市民部が所管する政策・施策について詳しくお伝えいたします。

1泊4日の弾丸視察？

先週は研修や視察が重なった一週間となりました。

27日(月)は、甘利大臣の後援会主催の研修事業で富士山や甘利大臣ともご縁の深い武田神社を参拝し、28日・29日は所属する新政いさまとして兵庫県相生市・小野市と陸上自衛隊青野原駐屯地を行政視察、30日(木)は座間市基地返還促進等市民連絡協議会で座間市に司令部がある陸上自衛隊中央即応集団の隷下部隊の中央即応連隊が駐在する宇都宮駐屯地を、新政いさまのメンバー8名を含む30名ほどで訪問しました。

結果、27日から30日までの4日間、新政いさまメンバーで行動をしましたが、その間、宿泊をしたのが28日の夜だけという『1泊4日』という弾丸ツアーの視察となりました(笑)。